

第15回うきは市ルネッサンス戦略推進協議会 議事要旨

日時：令和5年11月16日（木）14時～16時

会場：市役所3階 大会議室

出席：（敬称略）

会長	狩野啓子	久留米大学名誉教授
委員	松本孝之	九州経済産業局地域経済部地域経済課長兼総務企画部参事官（地域創生担当）
	川畑忠広	九州厚生局地域包括ケア推進課長
	穴井利明	九州地方整備局企画部工事品質調整官
	中島 潔	九州農政局福岡県拠点地方参事官
	木部匡之	福岡県企画・地域振興部市町村振興局政策支援課 企画主幹
	後藤 明	日本政策投資銀行九州支店企画調査課長
	小柳英樹	筑邦銀行吉井支店長
	谷口勇一	西日本シティ銀行吉井支店長
	植田祐一	西日本新聞社久留米総局長
	中嶋崇秀	うきは市社会福祉協議会事務局長
	樋口秀吉	うきは市商工会事務局長
	木下清実	にじ農業協同組合営農経済担当常務
	樋口哲也	浮羽森林組合専務
	久次辰巳	うきは観光みらいづくり公社代表理事
	大塚貴久子	浮羽青年会議所監事経験者
	處 愛美	うきは市教育委員会教育委員
	樋口晴美	浮羽中学校 PTA 副会長
	高橋和子	女性グループ白壁レディース 21 代表
	樋口幸代	女性グループうきは翼の会代表
副会長	重松邦英	うきは市 副市長

欠席： 委員 宗 重成 福岡銀行吉井支店長
関 健児 うきは市勤労者協議会元会長
野上良二 御幸地区自治協議会事務局長
藤川由美 子育て世代（子ども子育て支援事業計画委員経験者）

1- 開会（事務局）

2- あいさつ（会長）

3- 議事

(1) 令和4年度地方創生の主な取り組みと地方創
生プロジェクトについて（資料1・2）

【事務局】

～資料説明～

【委員】

質疑ではなく意見。リョーユーパンと連携で
開発された「苺ジャムパン」は、サンピットバ
リューでは大好評だった。ジャムパンの土日の
売上は、通常5個程度だったのが、この苺ジャ
ムパンになると300個に。親御さんが市外に
住むお子さんのために買うのだとも聞いた。今
後もぜひシリーズ化させて販売をお願いしたい。

【事務局】

そのような好評の声をきけて大変うれしい。
シリーズ化については検討したい。

【委員】

道の駅うきはと連携して開発された「巨峰パ
ールワイン」、これもシリーズ化することでうき
は市をもっとPRするべきだと思う。

【副会長】

すでに検討段階にある。現在、桃で仕込みを
行っており、年4種にわたってシリーズ化させ
る計画。

(2) 地方創生第2期うきは市ルネッサンス戦略P
DCAシートについて（資料3）

【事務局】

～資料説明～

資料3について事前に質問があり、回答する。

1. トップアスリートとの取り組みについて。

→ルリー口福岡の選手の方々には、各小学校で
夢の実現についての授業や、また様々なイベ
ントにも参加していただいている。リーグワ
ン昇格に向けて取り組みを進めており、市と
しても支援していきたいと思っている。

2. 地域コミュニティの再生と都市部の呼び込

みについて。商工会に加入していないのに商店
街の駐車場を利用しているのはいかがなものか。

→コロナ禍での補助金関係もあり、商工会の加
入率は全国的に、そしてうきは市でも、増加
をしているそう。市としては、引き続き商工
会の加入を呼びかけるとともに、駐車場問題
については、関連部署でワーキンググループ
を作り、横断的な議論を重ねて解決策を検討
している。今後取り組みの方向性が決まり次
第ご報告させていただく。

【委員】

1) うきはの資源活用と新たな雇用の創出 の
2) うきはのブランド力を高めます の観光入込

客数について、「観光客」の定義は。係数把握が
どういう基準なのかなど。把握は難しいのだろ
うという思いがあって。

【事務局】

観光入込客数については、福岡県に報告をし
ている。実際のイベント等の参加人数、また道
の駅であれば一定のレジ通過者数を按分して計
算に沿って一定の数を算出している。

【委員】

駐車場の件について、弊社店舗の駐車場も利
用のされ方に困っている。周りの飲食店のお客
さんが店舗の駐車場を使い、本来のお客さんが
駐車できないような状況がある。観光・飲食の
お客さんが来てほしくないわけではないが、そ
こら辺の整理をした方がいいのでは。市営駐車
場にもしかしたら地元の方が月極代わりに駐車
しているのなら、それも非常にもったいないと
思う。

【委員】

宿泊施設や喫茶店、食堂などがたくさんでき
ているが、地元の住民は困っているという声も
ある。よそから来る人ばかりを歓迎しすぎるの
ではなく地元住民への配慮も欲しい。

【委員】

私が相談を受けている人で、古民家を買って
移住を考えているが、購入金額についてトラブ
ルになりかけている。また他の自治体の例では、
無事移住できたとしてもノイローゼになってし
まったりと、それは移住者においても地元民に
おいてもあり得る話で。こういう課題も踏まえ
て、移住者を受け入れていく必要があると思う。

【副会長】

やはりうきは市はこういった場所であるため、
一定の観光客誘致は望まれている。そういった
望まれている中で目標を立てて、観光客を誘致
する一方で、局所的な話として、その観光客が
特に多いところの近隣住民の方が迷惑されてい

るという話、これはなかなか難しい課題。その点について、来年度が観光振興計画の改定の年で、観光公社のスタッフと協議をしている最中だ。その目標設定に消費額や入込客数というものを明確な目標にするのかどうなのかという観点からも今検討している。

世界的な流れとしては、「グローバルサステナブル・ツーリズム」という ISO 的な基準がある。自然環境を守りつつ、地域の自然や文化を生かした観光業を行い、住民の暮らしを向上させる取り組みで、うきは市としても取り入れた方がいいのではないかという論調になっている。『なんのための観光なのか？』住民の皆様喜んでいただけるような観光地づくりを目標に、外部の有識者の方にも入ってもらいながら、現在検討会を行っている。今回いただいた意見も、計画作りの中に取り入れていく必要があると思った。

移住者についても少しずつ増えてきていて、確かに地域に溶け込んでいる方もいらっしゃる。うまくいかない方もいらっしゃる。市としては、移住や創業についての窓口をうきは市民センターに設けている。相談があれば、ぜひこちらをご案内していただきたい。

【会長】

長期展望と短期での現実的な解決策と、両方あると思う。例えば昨今の外国人観光客誘致についてはずいぶん多極化してるなというのが印象。大都市へはもちろんだが、そうではない日本の田舎に行ってみただとか。そういう方を誘致するためには、ポイントを絞った宣伝活動が効果的だと思う。ただ地元住民の方がそれを良いと思うか、どんどん人が入ってきて嫌だと思えるか、これは長期になって考えるべき課題で難しい。

(3) うきは市の地域経済 2016→2023 について(資料4)

～事務局説明～

【委員】

資料を見ても分かるように、人口は減少傾向にあるし、財政力としても厳しい状況というのは変わらないと思う。定住人口が減っていく中で、市の財政やインフラを維持していくには、私は「関係人口」で補っていくしかないと思う。中の人口を増やすか関係人口を増やすか、なんらかの手段で収入を増やさないといけないという観点のもと KPI を定めつつ、うきは市自体がサステナブルであるということを目指して PDCA を見直していく必要があると思う。意見としては、このルネッサンス戦略は5か年計画ではあるが、日々目まぐるしく変わる情勢を捉えて反映させることができるような計画にもなれば良いのではと思う。

【委員】

以前、韓国の有名な YouTuber が自転車に乗ってうきは市を巡った投稿をしたところ、それを真似し、たどる様にして、韓国人観光客が急増したことがあった。自転車の乗り方は実際危険な場面もあり、このように確かに観光客が来ることで弊害は必ず起こると思う。しかしながら、せっかく観光に来たのであればお金を落として行って欲しいし、少しでも長く居てもらえるような温泉宿泊地をもっと活性化するような取り組みをすればいいのではないかなと思う。

【会長】

人気 YouTuber の影響力というのはかなりあると私も思う。そういう発信力も持ちあわせた旅行者に、うきはの魅力をキャッチして拡散してもらえよう、こちらも魅せる努力が必要と思う。

【委員】

地域経済循環率が 67.7% ということで、福岡県平均の 92.5% までどうやって上げていくのかというのが課題であるが、行政、観光、地元企業、商工会や農業関係、それに地域の方々を含めた協力体制がないと、この地域循環率が上がっていかないと思う。オールうきはで取り組んでいかないと、地域は疲弊していくばかり

だなど。例えば、オーバーツーリズム。観光だけに頼って観光客数をどんどん増やせばいいと、そういう話ではない。また現状を見つめたうえでどのように観光客の満足度と地域との調和を作っていくか。地域住民の満足度がないと、いくら観光施策をしても観光客の満足度は上がらない、これは比例するものだと思う。みんなが一緒になって取り組んでいくことは忘れないでおきたい。

【副会長】

実はこの地域経済循環率が非常に高い自治体が筑紫野市。筑紫野市の中でお金がたくさん回り、外からのお金も落ちてきている。筑紫野市に何があるか、皆さんもなんとなくイメージがわくと思う。うきは市を客観的に見たとき、うきはっていいなと思うところが、自然はもちろん、新しいお店がちよこちよこできているところ。こういうのはすごく魅力的。行ってみたい、住んでみたいとなんとかでも思わせるきっかけ作りが「観光」であって、芽をつくっていくのが「商工振興」なのかなと。時間はかかるが、総力戦でみんなで行っていかないとはいえないと思う。

(4) その他

【事務局】

事前に承っていた質問について、回答。

1. 台湾の半導体メーカー等が進出する中で、そういった契機をうきは市でもしっかりと掴んでいく必要があるのではないかと。

→ウクライナ情勢の影響もあり、うきは市に企業進出の問い合わせが多数あっている。うきは市の工業団地は現在全て完売しているが、新たな工業団地の造成については、候補地を含めて検討中である。ただ、工業団地の造成となると様々な面で検討する必要があり、調査段階にあると原課より回答があった。

また実際、資生堂福岡田主丸工場の本格稼働により、今年度Iターン者数が101名と歴代最高値となっている。このような移住者にも未永くうきは市に住んでもらえるよう、移

住・定住の取り組みについては、住宅関係補助金を拡充する等して進めていきたい。

2. 種苗業者と連携して耕作放棄地対策を行うてはどうか。

→平地は担い手が一定数おり営農組合でカバーができています。一方で、山間部については収益性・生産性が低い傾向にあり、種苗業者との連携も難しい現状であると原課より回答。また地域おこし協力隊は、レインボーファームでの経験を活かしながら、果樹栽培等を山間部で行っている。山間部については、今後、半農半Xも視野に入れながら取り組みを進めていきたい。

3. 空き家対策として、市内不動産業者や建築業者と連携して空き家をリフォームし、費用を回収できるような期間で払い下げをする、そのような事業はどうか。

→現在、空き家バンクの登録はかなり少ない状況であり、売買やリフォームは難しい。

企画調整係では現在、新築のマイホーム取得にかかる費用の補助を行っている。傷んで空き家になってしまう前の中古住宅に対しても、同様に補助できるような補助金メニューの拡充を検討しており、早い段階での物件の循環をまずは目指す。

4. 本協議会の委員の在り方について

→総合計画の終期が2025年となっていることから、今後もこの委員で残り約2年間をかけて第3次総合計画を策定していきたいと思っている。委員の在り方については、それまでは現行のままで進めていきたい。

【会長】

国の立場から何か示唆いただくことや、国の事業の情報提供などあれば、ぜひご発言いただきたい。

【委員】九州厚生局

2025年といえば、団塊の世代のすべてが75歳以上の高齢者となる時期。今後人口は減る一方。そういった中で、外部からの移住・定住の促進や内部の人口流出の削減、いかに今ある資

源を活用しながら魅力を発信していけるかを考えてあり、今日の報告を聞いて大変感心した。九州厚生局である私からとしては、高齢者が活躍する場というものについてもう少し考えてみてほしい。厚労省では現在、地域包括ケアシステムの構築を進めている。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送るというもので、これは地域で支えていく必要がある。また、介護における職員までもが高齢化をしている現状から、最近では外国人介護職員や介護ロボットの導入等の考え方もある。そのような観点も持って、住民が幸せになるという目的を忘れずに、地域づくりをしていただきたいと思います。

【委員】九州経済産業局

先ほども話になっていた空き家について、すぐに使える空き家がなかったり、条件とマッチしなかったりということで、いわゆる「取りこぼし」が起きていると思う。今、九州の福岡という地は実は全国そして海外からも住みたいと注目されている、と聞いている。せっかくの機会を逃す「取りこぼし」を防ぐためにも、経済産業省その他国の制度をうまく活用していただき、協力させていただきたい。

また、経済産業省と国土交通省では、公共交通機関と既存の様々なサービスとを掛け合わせた仕組み MaaS について、実証実験をするための支援などを行っている。実際に近隣であれば基山町でも前例があり、既存のサービスとを組み合わせ、住民をも巻き込んだ取り組みを行っている。そういった支援も準備しているので、ぜひ活用いただきたい。

【委員】九州地方整備局

国土交通省としては、公共事業インフラの整備、災害復旧事業が主で、なかなか地方創生として関連がないかもしれないが、ひとつ紹介させていただきたいのは官民連携基盤推進調査費。国土交通省と民間を連携した事業を検討する際に、調査や設計にかかる費用を支援するもの。こういった支援もぜひ活用していただきたいし、また行政と民間のつながりもより深まるのきっ

かけになるのではないかとも思う。

【委員】九州農政局

農林水産省の立場としては、新規就農者確保の事業をされている報告を受けて、大変感謝しているところである。うきは市は、水や土地等の素晴らしい環境であり、それら資源を活かして農業を活性化し、地域づくりにもつなげていただきたい。

また、棚田百選にも選ばれているうきは市の棚田では、キャンプ場としても活用していて全国からも問い合わせがあっていると聞いているが、これは職員の素晴らしいアイデアだなと思った。これからも、うきは市のやりたいこと・実現させたいことのサポートをさせていただきたいし、またうきは市の発展を期待してる。

【委員】

農林水産省の方に、種について質問。今後、気候変動や紛争により世界的な食糧不足並びに種の存続が危惧されていると聞いた。昔の農家は種も自分で作っていたが、最近は身近な農家でも種を買っているそう。そしてその種のほとんどは、海外から輸入されたものだ。そのように種の存続が危ぶまれる中で、早めにはうきは市で対策をとれないものかと考えるが、全国でそのような事例はないか、現在の日本の種の生産状況や今後の方向性等分かればお聞きしたい。

【委員】九州農政局

私も全てを把握しているわけではないが、確かに野菜の種のほとんどは、大手種苗会社が海外で種子を生産し、日本に持ってきている。食料安定保障という観点から、現在、国内でもより種子の生産ができるよう、国として国内種苗会社への支援は行っている。

4- 閉会

【副会長】

短い時間での説明だったが、報告のとおり、うきは市の財政力指数は0.39とかなり低い。これを改善させるためにも、たくさんの国や県の

施策の中から、今のうきは市に合うものを我々に厳選し活用させていただいている。今日は紹介できなかったが、例えば、できるだけ化学肥料を使用せずに作物を生産するオーガニックビレッジ。「未来の」農業のためということで種をまくような施策を進めている。また、環境省の施策で、脱炭素先行地域にうきは市が選ばれた。こういったもので、新しいうきはを作っていこうとしている。

今日は、市内の関係者から身近な感覚というところで意見をいただき、また国県の機関からも様々な施策の紹介もあり、我々としては非常にありがたい。多方からの意見を取り入れ吟味してくのが、市行政の仕事だと思う。何もしなければ何も始まらない。時には失敗することもあるがそれも許してもらいながら、新しいことにも挑戦していきたいと思っている。